

事務連絡

平成22年6月25日

各 { 都 道 府 県
指 定 都 市
児童相談所設置市 } 児童福祉主管部（局） 御中

厚生労働省雇用均等・児童家庭局総務課
虐待防止対策室

「臓器の移植に関する法律」の運用に関する指針（ガイドライン）の改正について

臓器の移植に関する法律の一部を改正する法律（平成21年法律第83号）が本年7月17日に施行されることに伴い、今般、「臓器の移植に関する法律」の運用に関する指針（ガイドライン）が改正され、それに伴い、「臓器の移植に関する法律」の運用に関する指針（ガイドライン）における虐待を受けた児童への対応等に関する事項に係る留意事項について」が別添のとおり、平成22年6月25日付健臓発0625第2号により、厚生労働省健康局疾病対策課臓器移植対策室長より各都道府県、指定都市及び中核市の衛生主管部（局）長あて通知されました。

当該通知においては、臓器提供施設の患者である児童について、虐待が行われた疑いがあるかどうかを的確に確認できるよう、日頃から児童相談所等の関係機関と連携を図るとともに、地方自治体等が実施する児童虐待防止対策に係る研修に職員が積極的に参加する等により、児童虐待への対応に当たる者の資質の向上に努めることとされています。

当室としても、医療機関である臓器提供施設が児童相談所等と連携し、また、当該施設に所属する職員が児童虐待防止に関する研修の受講等によりその知見を増やすことは児童虐待防止対策として有用であると考えますので、臓器提供施設等の医療機関が参加可能な児童虐待防止対策に関する研修等の実施にご配慮いただくとともに、当該研修の実施について、貴衛生主管部（局）も通じて周知する等により、臓器提供施設等の職員が研修等へ参加しやすくなるよう努めていただきますようお願いいたします。

つきましては、管内市町村並びに関係機関等への周知についてご配慮をお願いします。

健臓発0625第2号

平成22年6月25日

各 { 都道府県
指定都市
中核市 } 衛生主管部(局)長 殿

厚生労働省健康局疾病対策課

臓器移植対策室長



(印影印刷)

「臓器の移植に関する法律」の運用に関する指針(ガイドライン)における虐待を受けた児童への対応等に関する事項に係る留意事項について

今般、平成22年6月25日付け健発0625第2号厚生労働省健康局長通知にて「臓器の移植に関する法律」の運用に関する指針(ガイドライン)の一部が改正されたところですが、改正後のガイドラインの第5(虐待を受けた児童への対応等に関する事項)に係る留意事項は、下記のとおりです。

つきましては、貴管内市町村、関係機関及び関係団体等に対する周知について御配慮をお願いします。

なお、下記4の内容については、厚生労働省雇用均等・児童家庭局総務課虐待防止対策室と協議済みであることを申し添えます。

記

1. ガイドライン第5の1(2)に規定する「児童虐待の対応に関するマニュアル」(以下「虐待対応マニュアル」という。)とは、臓器提供施設において、臓器提供に関係するか否かに関わらず、当該施設の患者である児童について虐待が行われた疑いがあるかどうかを確認し、及びその疑いがあると判断した際の対応について、手順等を示すものであること。
2. 児童からの臓器提供を行う施設において虐待対応マニュアルを整備するに当たっては、以下に例示するような関係学会、行政機関等において

作成された指針等を参照するものとし、当該マニュアル中に、参照した指針等を明記すること。

- ・「脳死下臓器提供者から被虐待児を除外するマニュアル」
(平成21年度厚生労働科学研究費補助金(厚生労働科学特別研究事業)「小児の脳死判定及び臓器提供等に関する調査研究」)
- ・「子ども虐待診療手引き」(日本小児科学会)

3. ガイドライン第5の3(3)に規定する「捜査機関との連携」については、関係省庁とも協議の上で、別途通知(「臓器移植と検視その他の犯罪捜査に関する手続との関係等について」(平成9年10月8日付け健医疾発第20号厚生省保健医療局エイズ疾病対策課長通知))が発出されているところであり、当該通知の記の第2の4を参照すること。

4. 臓器提供施設は、当該施設の患者である児童について虐待が行われた疑いがあるかどうかの確認を的確に行うことができるよう、日頃から児童相談所等地域の関係機関と連携を図るとともに、地方自治体等が実施する児童虐待防止に資するための研修に積極的に参加すること等により、児童虐待への対応に当たる職員の資質の向上に努めること。

「臓器の移植に関する法律」の運用に関する指針（ガイドライン）（抜粋）

平成 9年10月 8日 制定
平成10年 6月26日一部改正
平成11年 9月20日一部改正
平成11年11月19日一部改正
平成14年 7月31日一部改正
平成19年 7月12日一部改正
平成22年 1月17日一部改正
平成22年 7月17日一部改正

第5 虐待を受けた児童への対応等に関する事項

臓器の移植に関する法律の一部を改正する法律（平成21年法律第83号）附則第5項においては、虐待を受けた児童が死亡した場合に当該児童から臓器が提供されることのないよう、移植医療に係る業務に従事する者がその業務に係る児童について虐待が行われた疑いがあるかどうかを確認し、その疑いがある場合に適切に対応する必要がある旨規定されていること。

このため、脳死・心臓死の区別にかかわらず、児童（18歳未満の者をいう。以下同じ。）からの臓器提供については、以下のとおりとし、虐待が行われた疑いがある児童が死亡した場合には、臓器の摘出は行わないこと。

1 児童からの臓器提供を行う施設に必要な体制

次のいずれも満たしていること。

- (1) 虐待防止委員会等の虐待を受けた児童への対応のために必要な院内体制が整備されていること。
- (2) 児童虐待の対応に関するマニュアル等が整備されていること。なお、当該マニュアルは、新たな知見の集積により更新される必要があること。

2 虐待が行われた疑いの有無の確認について

- (1) 児童の診療に従事する者は、臓器の提供に至る可能性があるか否かにかかわらず、可能な限り虐待の徴候の有無を確認するよう努めること。また、その徴候が確認された場合には、児童からの臓器提供を行う施設においては、当該施設の患者である児童について、虐待対応のための院内体制の下で、虐待が行われた疑いがあるかどうかを確認すること。
- (2) この結果、当該児童について虐待が行われた疑いがあると判断した場合には、児童からの臓器提供を行う施設は、児童虐待の防止等に関する法律（平成12年法律第82号）第6条第1項の規定により児童相談所等へ通告するとともに、警察署へ連絡するなど関係機関と連携し、院内体制の下で当該児童への虐待対応を継続すること。
- (3) なお、その後、医学的理由により当該児童について虐待が行われたとの疑いが否定された場合についても、その旨を関係機関に連絡した上で、当該児童への虐待対

応の継続の要否について検討すること。

3 臓器提供を行う場合の対応

- (1) 主治医等が家族に対し、臓器提供の機会があること等を告げようとする場合には、事前に、虐待防止委員会の委員等とそれまでの診療経過等に関して情報共有を図り、必要に応じて助言を得ること。
- (2) 児童から臓器の摘出を行う場合には、施設内の倫理委員会等の委員会において、2及び3（1）の手続を経ていることを確認し、その可否について判断すること。
- (3) なお、施設内の倫理委員会等の委員会で、児童について虐待が行われた疑いがなく当該児童から臓器の摘出を行うことが可能であると判断した場合であっても、刑事訴訟法（昭和23年法律第131号）第229条第1項の検視その他の犯罪捜査に関する手続が行われる場合には、捜査機関との連携を十分に図ること。